

地域経済 ヘッドライン

成型用金型製造を無人化

電子部品メーカーのモルデック(福島県大玉村)は来年夏にも、成型用金型製造過程のほとんどを無人化した新型工場を大玉村に新設し、本社機能と併せて移転する。新工場は、牧野フライス製作所などとの共同開発で、投資額は約十億円。高精度のロボットを導入し、イントラネットで社員が必要なときに自宅からパソコンで製造現場を管理する体制を整える。工場の二十四時間稼働を可能にして製造コストを引き下げ、競争力を高める。

ごみ焼却灰を溶融・固化

日本環境保全(茨城県牛久市)はごみ焼却灰を溶融・固化する装置を開発、熊本県内のごみ焼却場で来年四月から実証試験を始める。ごみ焼却灰に重油バーナーの火炎を当てて溶かし、水槽に落としてガラス状の固形粒子にする仕組みで、茨城大学と共同開発した。処理後の焼却灰はダイオキシンなどの有害物質が除かれて無害になるほか、建設資材への再利用も可能になるという。装置の実用性を確かめ、全国の自治体などへ売り込む計画だ。

マツダ、期間工採用を延長

マツダは年末までの予定だった期間工の採用と、事務・管理など間接部門から生産現場への応援を九八年三月ごろまで延長する。採用は月間五十〜六十人程度のペースの見通しで、その後も生産が増えれば、四月以降も採用を続ける可能性がある。輸出を中心に生産が予想以上に伸びているのに加え、新型車の投入が相次ぎ、現場の人員が不足してきたため。マツダの生産回復は地元の雇用環境にも好影響を与えそうだ。

福岡—欧米路線が拡充

外国の航空会社が福岡空港から欧米へ向かう旅客向けの路線を拡充している。米デルタ航空が米本土への直行便を準備しているほか、キャセイ航空は十月末から欧州などへの乗り継ぎに便利な香港直行便を増便。スイス航空は福岡—スイス線の市場調査を実施した。福岡空港は現在、米本土や欧州への定期便がゼロ。外国航空会社の路線拡充が進めば、九州の海外旅行者の利便性が向上しそうだ。

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社